

学校とつなが  
ってつくる豊かな  
未来事業

# 小学校外国語体験活動事業

豊中市のすべての小学校の3年生～6年生のクラスに、地域に暮らす外国人ボランティアを派遣して、ルーツのある国の文化や言葉を紹介しします。豊中市教育委員会の委託事業。

コーディネーター  
より



## 2018年度に向けて

2018年度は、活動に関わってくださっているボランティアへのフォローを充実させつつ、他事業にアプローチしながら新しいボランティアの発掘をしていきたいです。また、開始から10年以上が経過しているので、まとめの報告書を作成できればと思います。

写真上)子どもたちと楽しい時間を過ごすことができました。  
写真下)ボランティアの話に真剣に耳を傾ける子どもたち

## 2017年度を振り返って

外国語体験活動では2017年度も豊中市内の全小学校で地域に住む外国人サポーター56人が総数時間1200コマを超える授業を行いました。この活動では様々な外国語だけでなく、授業を行うボランティアの出身国の文化や遊びなどを紹介し、子どもたちに知ってもらうこと、出会うことを大切にしています。2017年度に子どもたちが授業を通して出会った国は25か国にのぼります。授業を行うボランティアにとってもこの活動を通じて小学校や地域、社会とつながる良い機会となっており、いきいきと活動に参加されています。

多文化こども  
エンパワメント  
事業

# 子ども学習広場「学楽多（がらくた）」

豊中市くらし支援課の委託事業として、市内2か所で子どもの学習サポートを行っています。  
@「しょうないガダバ」は毎週火曜日 17:00～19:00、@とよなか国際交流センターは毎週金曜日 17:00～19:00。

## 2017年度を振り返って

子ども学習広場「学楽多（がらくた）」は2年目となり、4月からスムーズに活動を開始することができました。8月には2回のボランティア養成講座を開催し、新たなボランティアの参加によって、より充実した支援体制となりました。子どもの人数も増え、学習意欲も高まりを見せています。また、料理活動、カード遊び、物作り等を通して、大切な居場所として子ども同士のつながりも深まってきました。学習支援は「しょうないガダバ」と「とよなか国際交流センター」の2か所で年間計95回開催し、子どもが延べ420名参加しました。



大好きな料理活動：お気に入りのキャラクタークッキーを作っています



わかる喜びを感じ、学習するときは真剣勝負！



ボランティアがやさしく教えてくれます（@庄内）

## 2018年度に向けて

3名の中学生の高校進学をはじめ、子どもたちの学ぶ喜びと生きる力に結びつく体験学習を考案していきます。また、庄内とセンターの連携と交流の場を企画し、支援者と子ども達のつながりをつくりたいと思っています。

# おとなサポート事業

# 多言語相談サービス事業

外国人市民が地域で安心して生活できるよう、必要な情報の提供と相談サービス（電話、面接）を多言語で行う。相談体制：金曜日 11 時～16 時／日本語、英語、フィリピン語、タイ語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、ネパール語

## 2017 年度相談実績について

2017 年度の相談件数は 952 件、前年度が 1,146 件だったため、前年度比 17%減だった。一昨年度とほぼ同件数となった。2016 年度中に、中・長期に渡る調停や訴訟ケースが一定終了したことが件数の増減の背景と考えられる。

相談者の居住地は、例年通り豊中市が最も多く、41.5%だった。センター事業の「利用者」からの相談は、例年通り豊中市民が多く、約 65%を占めた。大阪府下全域では 77.6%であり、この割合傾向は例年と変わらない。近畿の他府県以外の地域や海外など遠方から電話やメールでの相談が約 5%あった。

国籍は例年通りフィリピンが最も多く 40.2%。フィリピン語での相談が大阪ではほとんどないため、当方に集中していることに加え、継続対応が必要な相談内容が多い。長年実施してきているため、口コミで相談につながっている。次いで中国が 9.1%、ネパール 6.9%、韓国 5.1%、ベトナム 3.7%となっている。在住人口が増加しているネパール、ベトナムは相談でも増加傾向を示している。日本国籍者からの相談も多く、12.2%を占めている。

日本国籍だがルーツが日本以外の方は 76 件（約 8%）だった。日本国籍で使用言語が日本語以外の相談は 22 件、外国籍だが日本語で相談を行ったのは 399 件で（約 42%）、そのうち相談対応言語以外の言語を公用語（母語）とするものは 53 件、15 か国語だった。日本語で対応した相談は、日本語での会話が可能で、プライバシーを守りたいために、あえて日本人スタッフへの対応を求めたものと、関係機関との連携によるものが多かった。国籍は 38 か国に及んだ。

在留資格は定住者 25.7%、永住者 15.7%、配偶者 10.3%だった。

職業では介護職が 18.3%、介護職以外のパート・アルバイト（工場勤務等）が 13.9%、学生 8.2%、無職（主婦を除く）が 7.8%だった。学生は主に中高生の相談である。無職の約半数は生活保護受給者で、就労者はほぼ非正規労働者である。

1 4版 2017年(平成29年)4月27日(木)

## 配偶者が署名偽造 保険書類とだます

# 知らぬ間に離婚届



## 制度悪用 外国人被害

外国人の相談支援に取り組み民間団体に「日本人配偶者に無断で離婚された」という相談が相次いでいる。離婚届に書き込むだけでなく、子どもの親権を定められ、夫婦双方の意思を直接確認しなくても届を受けると日本の協議離婚制度は世界的に珍しく、外国人に知られていないとみられる。支援団体は多言語での仕組みについて注意を促すリーフレットを作成し、今週から配布を始めた。反橋希美(写真も)

### 支援団体がリーフレット

リーフレットを作成した「届を役所に提出せよ」は、公設団法人とよか国際交流協会(大阪府豊中市)など、関西の7団体や弁護士、大学教授らをつくるグループ「リコン・アラート」の2年前から事例の研究や防止策の検討を続けてきた。協議離婚は、夫婦が署名した

### 紙一枚親権も奪われ

「たった一枚の紙が人生を変えました。西本在住の30代外国人女性は嘆く。2005年に日本人男性と

### 他国にない制度

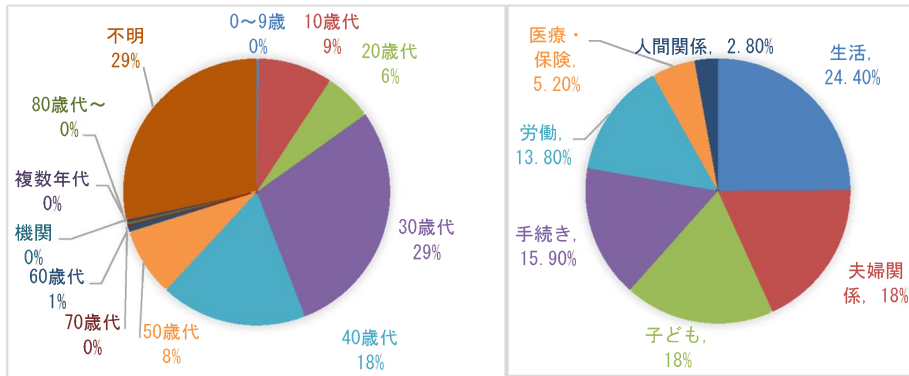
二宮周平・立命館大学教授(家族法)の話、日本の協議離婚制度は一方的な届提出が可能という、他国にない特殊な制度。子どもが不利を被らないよう、国が責任を持つべき」と指摘。女性が親権を奪われる

が、決められた日男性は現れず、調停員から「離婚は成立している」と言われた。取り寄せた戸籍簿で、男性が親権を自分にして離婚届を出していたことが分かった。帰宅後、言い争いから男性は女性に激しい暴力を振るい、警察に訴えた。女性はシングルマザーで保護された。この訴えは聞き入れられず、子どもたちは児童相談所で保護された後、親権者の男性側へ引き渡された。女性は離婚無効を認める調停を起したが、夫に「調停を取り下げれば子どもに会わせる」と言われ、子どもを心配するあまり取り下げることになった。だがその面会も1カ月前から途絶えた。女性は「私は絶対に離婚届にサインしない。子どもたちが心配」と声を詰まらせた。

写真) 2017 年 4 月 27 日毎日新聞にて、当協会が代表事務所となっている「リコン・アラート(協議離婚問題研究会)」の取り組みが掲載されました。

※リコン・アラートの構成団体：RINK、神戸外国人救援ネットワーク、京都YWCA/APT、いくの学園、ヒューライツ大阪、箕面市国際交流協会、大阪府国際交流財団、シナビス、二宮周平さん(立命館大学)、外国人ローヤリングネットワーク。 ※勝手に離婚されないための啓発パンフレットと動画を 11 言語で作成し、2017 年 4 月から配布・配信しました。ウェブサイトから動画、パンフともダウンロードできます。 <http://atoms9.wixsite.com/rikon-alert>





2017年度相談者内訳 年代別

相談内容別



協会の日本語ボランティア有志で結成された「日本語支援グループ・むすびめ」との共催で日本語能力試験を受験する人のための個別サポートを実施して、就労やキャリアアップをめざす方をサポートしています。

年2回実施される試験にあわせて、4月～6月、9月～11月に毎週火曜日にサポートを実施しています。今年は10人のボランティアが14人の学習者をサポートしました。



フィリピン人向けの学習会「フィリピン人の離婚と再婚～法的要件と手続き」を開催。講師は弁護士の甲斐みなみさん、弁護士のジェフ・プランテリヤさん、フィリピン総領事館から副領事のシャーリー・O・ヌエヴォさん。活発な議論が展開されました。

外国人のため健康セミナー&個別健康相談をNPO法人CHARM、豊中市保健センターの協力を得て開催。セミナーは「子どもの生と性を考える」をテーマに、昨年引き続き北野真由美さん(えんばわめんと堺/ES)からおとな向け/子ども向けにお話し頂きました。

### 2018年度に向けて

- ・外国人利用者の交流イベント創出（国を限定せず、単発で、参加しやすく、職員とも交流でき、みんな楽しめるイベント）
- ・「リコン・アラート」継続（出版も企画中）
- ・外国人等マイノリティのための保証人協会、外国人の裁判・弁護士利用促進にむけた協議会などの立ち上げについて「夢」を語り合いたい。
- ・医療や通訳サービス会社との協働の可能性を探り、豊中市内の医療機関の外国人利用向上をはかりたい。
- ・引きつづき、人材育成をはかりたい。

## 【相談サービス事業における対応について】

### (1) ケース・ワークと他機関とのネットワーク（連携）

相談者の状況や相談内容が、諸制度を利用して問題の解決をはかる必要がある場合、ケース・ワークを行う。

豊中市在住の相談者について、相談者が他機関に関わっている場合、あるいは問題対応に他機関との連携が必要な場合は、関係機関で情報を共有したり協力するなど、より適切に対応できるようにする。

ケース・ワークが必要だが、相談者が遠方に住んでいたりと、当協会が直接の関係機関として関与しえない場合などは、相談者が住む地域の援助機関と連携をとる。その地域で多言語の援助がない場合は、スタッフが相談者に対し、彼/彼女の状況を説明したり、相談者の希望や考えを援助機関に伝えるなど、仲介的役割を担う。

他機関では多文化対応が不十分な場合があるため、相談者の状況についてスタッフが機関に説明し、適切な対応を依頼する。また相談者は、どのような支援が受けられるか十分理解できないことが多いため、スタッフが相談者の母語で説明し、相談者の安心や納得を促す。その地域で多言語対応が可能な場合でも、相談者がスタッフへの相談を望む場合は、相談者の不安を支え、相談者が適切な支援を受けられるよう支援する。

### (2) 心理カウンセリング

相談者の悩みや問題について、相談者自身の内面に焦点を当てる必要がある場合は、心理カウンセリングを行う。相談者が自分の内面に目が向けられるよう、受容・共感・承認的応答を行い、自分の気持ちや考えに気づき、自分なりの決定や選択ができるよう支援する。

### (3) 情報提供等

日常生活における情報や、行政手続等に関する情報など、相談者が法・制度や地域情報等を知らなかったり、理解していない場合は、情報提供する。

例) 公営住宅の申込み、交通事故の対応、病院の情報、健康診断の結果について、確定申告、求職時の書類記入等

### (4) 安心して集えるコミュニティづくり

センターでの他事業を利用する来館者に対し、同国・母語の仲間と出迎え、安心できる環境を提供する。コミュニティ内で集う人が安心できるようなコミュニケーションに注意したり、ニーズに対応するなどを行った。必要であれば、随時個別相談として対応し、また逆に、相談に訪れた人に出会いの場へ促すなどを行った。

学校とつなが  
ってつくる豊かな  
未来事業

## 国際教育

「多文化フェスティバル」、帰国・渡日児童生徒学校生活サポート事業での「多言語による進路相談会」など、学校や教育委員会との連携により、外国にルーツを持つ子どもたちをサポートしています。

### 2017年度を振り返って

「国際教育推進協議会」との共催で実施した「多文化フェスティバル」では、センター内外で活動する多様な子ども事業のブース出展があり、多くの参加者が様々な文化を楽しみました。また、豊能ブロック協議会の構成団体として帰国渡日児童生徒のための「多言語進路ガイダンス」を開催しました。高校入試制度や進学後の生活の説明は外国にルーツを持つ児童生徒の進路保障の貴重な場となりました。その他に「ルーツ教員研究会」に関わりました。



写真)「多文化フェスティバル」でラップを披露するネパールの高校生。

### 2018年度に向けて

「多文化フェスティバル」では外国にルーツを持つ子どもが出会い・つながる仕組み作りを、「多言語進路ガイダンス」では子どもの進路保障のために内容を一層充実させていきます。「ルーツ教員研究会」では秋以降に出版及び報告の場を設ける予定です。

おとな  
サポート  
事業

## Filipino Young at Heart's Club (FYAHC)

NEW

2016年度に(公財)大阪コミュニティ財団の助成を受けて実施した外国人高齢者の調査をふまえて、相談サービスで利用者が最も多いフィリピン人を対象として、40歳以上の中高年向けの居場所を2017年5月から「Filipino Young at Heart's Club」として毎月1回開催しています。

### 2017年度を振り返って

日本において、外国人の高齢化率で最も高いのは韓国・朝鮮籍の24.4%です。しかし45歳～64歳の「高齢者予備軍」の年齢層を見ると、フィリピン、ブラジルや台湾、米国では各々の約3割を占めており、今後日本では外国人高齢者の多様化が進むと考えられます。

2017年5月にスタートしたFYAHCでは、ビンゴゲームや軽食の交流、日本の年金制度や雇用に関する勉強会、健康体操(ズンバ)、クリスマスパーティなどを行いました。



### 2018年度に向けて

引きつづき、日本に暮らす仲間と出会い、生活情報を交換し、学びあう場を継続して創出していきたいと考えています。

写真上)クリスマスパーティは若い世代や子どもたちも参加して大盛り上がり!

写真下左)豊中市消防局の救急救命講座。

写真下右)フィリピンでも流行中の健康体操「ズンバ」も大人気です。心と体をリフレッシュ!





おとな  
サポート  
事業

# 防災事業

自然災害の多い日本で外国人が安心して暮らせるように、大規模災害時の外国人支援につながる啓発活動を行い、災害時の支援体制を整備していく取り組みを各機関と連携しながら行っています。

## 2017 年度を振り返って

今年度は大阪府国際交流財団の協力により、災害時多言語支援センターの設置マニュアルについてワークショップ形式で学びました。東日本大震災や熊本地震の事例の話から、今後、検討・準備しなければならないことが明らかになりました。また、市内各地域で実施されている防災訓練にもオブザーバー参加しました。

地域に暮らす外国人が災害時に安心・安全に避難するために必要な準備について、具体的に考える年となりました。



写真) 災害時多言語支援センターの設置訓練の様子

## 2018 年度に向けて

災害時に多言語支援センターをスムーズに設置・運営できるよう、大阪大学など地域の教育機関との連携体制を確立します。また、実際に豊中市内の各地域での多言語対応についても準備を進めます。

こども  
国際  
事業

# 平和と共存のための～おまつり地球一周クラブ

小・中学生のための国際理解プログラム。地域に住む外国人を講師に迎えて交流しながら、様々な国、地域について学びます。月1回程度実施。

## 2017 年度を 振り返って

様々な国出身の方を講師に招き、遊び、料理、ゲーム等の体験を通して、その国の文化について学びました。全8回のうち3回は韓国・朝鮮文化を知るシリーズを行いました。子どもたちは積極的に質問をしながら体験をし、講師は自分の文化を語りながら楽しそうに子どもたちと関わる姿が見られました。

フィリピンの伝統的なクリスマスの飾り「パロル」を作るイベントが23日、豊中市内で開かれ、小学生ら約20人が参加した。とよなか国際交流協会が主催。子どもたちは、同協会のボランティアで母がフィリピン出身の大阪大4年、藤見愛香さん(21)から指導を受けながら、竹ひしを輪ゴムでくくりつけて星

## 比のクリスマス 豊中で飾り作り

形とし、色とりどりの画用紙などを取り付けて作りあげていった。写真。箕面市立南小4年、柴田音季さん(10)は「少し難しかったけど、流れ星みたいなカラフルなパロルができた。家のクリスマスツリーに飾りたい」と笑顔で話していた。



写真左) フィリピンのクリスマス飾りパロル作りが読売新聞に掲載されました(2017年12月24日)  
写真上右) 韓国の遊び(コンギ)体験  
写真上左) モロッコ出身の講師と一緒にアラビア文字ゲーム  
写真下) ベナンのローカルフード「ガリ(材料はキャッサバ粉)」作り

## 2018 年度に 向けて

今年度も好評だった「調理実習」や「体を動かすプログラム」、その他「お出かけプログラム」等も取り入れて、多様な角度から異文化体験ができるよう企画検討したいです。



留学生  
ホストファミ  
リー事業

# 留学生・ホストファミリー事業

留学生とホストファミリーのホームビジット型の交流活動。半年から1年にかけて交流しています。運営は「ホストファミリー世話人会」が中心になって、様々なイベントや日本文化体験事業も開催しています。



毎年恒例の万博記念公園での交流会



淀川花火大会鑑賞での一コマ



上) 万博交流会、ゲームで盛り上がっています。  
左) 留学生も手巻き寿司づくりにチャレンジ!

世話人会より

## 2017 年度を振り返って

ホームビジット型のホストファミリープログラムです。留学生の日本滞在中、月1~2回程度の交流が大半です。しかし帰国後も留学生が旅行等で再来日したり、またホストファミリーが結婚式に招待されたり、あるいは観光を兼ねて訪問したりと交流が引き続き長く継続されるケースもあります。これもひとえにホストファミリーが留学生を家族の一員として受け入れ、お互い理解し合えた結果です。国家間の関係は時に難しく良好でない場合でも、異文化を尊重し個人レベルで国際交流が一層広がっていけば、と思います。

## 2018 年度に向けて

ホームビジット型のこのプログラムを多くの人に知ってもらい、国際交流の入り口に入ってもらえる機会を今まで以上に広報・提供していきたいと思ひます。



大阪大学卒業式



にほんご  
交流活動  
事業

# しょうない・おやこでにほんご

子育て中の外国人女性のための居場所づくりを市立図書館との共催で行っています。  
毎週火曜日 10:00~12:00 (会場：庄内図書館)



写真右) インドネシアのお母さんによるイスラムのストールの巻き方レッスン  
写真左上) ハロウィンでピニャータ！  
写真下) 図書館の人がうちわ作り体験を行ってくれました

ボランティアより

## 2017 年度を振り返って

2017 年度のおやこの活動で公民館のイベントに参加することが定着してきました。こういった地域のイベントに参加する事は、地域の人たちに喜んでもらえる催し物を考えることで、ボランティアと外国人お母さんと団結出来る良いきっかけとなるからです。

また、こういったイベントで外国人お母さんの居場所があるという事をもっと知らせてあげられたらと思います。

## 2018 年度に向けて

2018 年は新しい試みとして、活動中に色々な国の子ども向け音楽や会話 CD を BGM として流すことにしました。自然と子ども達の耳に色々な国の言語が入って良い体験になるのでは？と外国人お母さんが提案してくれました。

にほんご  
交流活動  
事業

# おかまち・おやこでにほんご

子育て中の外国人女性のための居場所づくりを市立図書館との共催で行っています。  
毎週火曜日 10:00~12:00 (会場：岡町図書館)

## 2017 年度を 振り返って

今年度も各国のお料理会や季節のクラフトなど、様々な活動しながら沢山のおしゃべりに花が咲きました。お知り合いに外国人ママはいらっしゃいませんか？ 気軽に参加できる場所があることを是非ご紹介ください。

ボランティアより



写真上) お誕生日会などのお祝いをしました  
写真下左) 書き初めや季節のクラフトなどをしました  
写真下中) 赤ちゃんも一緒♡  
写真下右) 外国人ママにお料理を教えてもらったり、お弁当作りにも挑戦

## 2018 年度に向けて

引き続きボランティアも外国人ママも心置きなく集える場所となるよう活動していきたいです。





にほんご  
交流活動  
事業

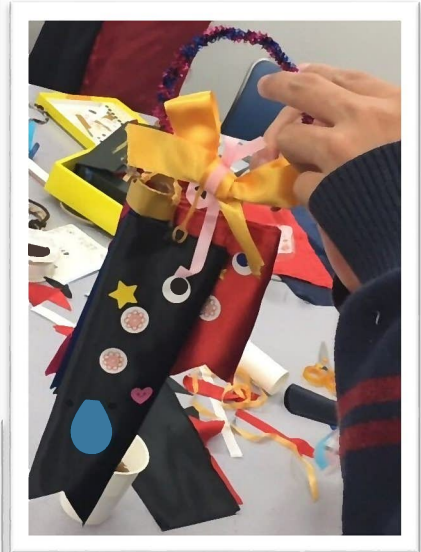
# せんり・おやこでにほんご

子育て中の外国人女性のための居場所づくりを市立図書館との共催で行っています。  
毎週火曜日 10:00~12:00 (会場：千里図書館)

2017 年度を振り返って

外国人ママと同じ立場で、外国人ママが直面している問題に共感し、また解決を図ることができました。私たちスタッフにとっても、最新の子育て情報を得る良い機会になりました。外国人ママの出身国を知ることができたり、ママの特技を活かせるイベントを実施し、外国人ママの人柄や事情をスタッフ全員で共有していきたいです。スタッフ主体ではなく、外国人ママをも巻き込んで楽しい企画を考えていきたいです。

ボランティアより



2018 年度に向けて

情報共有体制やスタッフの負担軽減・平等負担を考え、できる人ができることを頑張り、無理をしないことを大切にしたいです。長くこの活動を続けていくための体制を作っていきたいです。



写真上左) セタで浴衣の着付けをしました  
写真上右) こどもの日にちなんで、こいのぼり作成  
写真下) いろんなおにぎりをつくりました。

にほんご  
交流活動  
事業

# 千里にほんご NEW

2017 年度からスタートした日本語交流活動。千里地域連携センターとの共催で、豊中市東部・千里地域での外国人の居場所、交流の場づくりを行っています。毎週木曜日 10 時~11 時 30 分。(会場：千里公民館、千里図書館)

2017 年度を  
振り返って

場所は千里図書館と公民館、千里地域連携センター共催という「強み」を生かした活動ができました。月 4 回の学習機会の確保、子どもの見守りボランティアの導入、また UR 団地の外国人居住者支援イベントにも参加しました。国流の他事業との連携もあり学習者の幅広い生活、日本語学習支援ができました。

ボランティアより



2018 年度に向けて

来年度は 2 年目です。まず、活動を広く知ってもらい、同時にボランティアのスキルアップをしていきたいです。学習だけでなく、季節の行事に関するイベントを取り入れて、活動内容の充実にも力を入れていきます。

写真右) ママは学習、ぼくはおもちゃ。いっしょだから安心。  
写真左) 活動を振り返るワークショップを開催